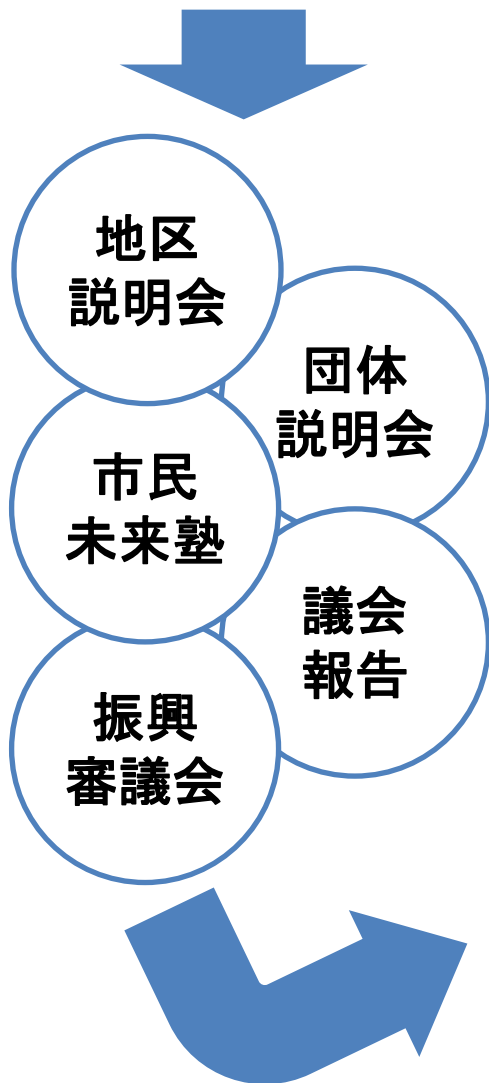


「骨格案」の説明



【追加・検討すべき事項】

意見1 「「しあわせ」や「ゆたかさ」は定義がわからない。どうなっていれば目標に到達したと言えるのか。具体的な姿(まちに愛着を感じる人が何%になるかなど)を示してほしい。」(団体)
「評価は行政内部だけでなく、様々なステークホルダーと一緒にすべき。」(地区、審議会)
「行政がまちづくりの目標を明確に示し、市民がそれをチェックする機能があれば協働型のまちづくりができる。」(未来塾)

→ わかりやすい目標と成果指標を設定することが必要。

意見2 「行政は計画書を作って終わり。評価もせずにまた計画を作る。それを繰り返さずに、しっかり評価して情報を出すべき。市民に出している情報が不足している。情報量に格差がある状況では、協働はできないのではないか。」(地区)
「行政は施策の情報や経過をしっかりと公開することが必要。市民はそれを知り、理解し、参加する姿勢を持つことが必要。」(未来塾)

→ 協働によるまちづくりのためには徹底した情報公開が必要。

意見3 「高齢者が増えているなかで、買い物難民のような人や独居老人も増加している。その対応が必要。」(地区)
「高齢者の能力を活かせる市民生活の構築をしてほしい。」(地区)
「しあわせをつくるには家庭が大事であり、女性の力が大きい。男女共同参画を推進して、女性も男性も子育てや介護などに組みやすい地域社会にしてほしい。」(団体)

→ 高齢社会への対応や男女共同参画社会の実現が必要。

【対応案】

基本構想にわかりやすい目標を掲げ、そのための指標を基本計画に盛り込む。

(例)

- ・目標の姿を「しあわせ指標」として表す。
→ 総合指標
- ・各施策の成果を端的に示す指標を設定する。
→ 個別指標

【対応案】

特定の分野だけで取り組むのではなく、全ての分野で意識していく必要がある。

→ 各分野・施策共通の課題とし、今後の方向性に織り込む。

地区別説明会、各団体出前説明会などについて(分野別事項)

「骨格案」の説明

地区
説明会

団体
説明会

市民
未来塾

議会
報告

振興
審議会

【市民生活・安全安心分野】

1. 定住してくれる人を増やしていくため、子育て世代への支援策がもっと必要。(地区)
2. 高齢化によって増加している高齢者世帯、高齢者単独世帯への対応が必要。高齢者世帯が雪害を受けないような除雪体制や支援など。若い人もお年寄りも住みやすいまちになる。(団体)
3. 健診の受診率を上げることが寿命を延ばし、人口減少を抑える。また、がん検診や不妊治療に対する施策も人口問題への対策につながるため、相談窓口などを検討してほしい。(審議会)
4. 子どもと高齢者が一緒に活動できる場(居場所)があれば、両世代にとって良いこと。(審議会)
5. 子どもたちにいかに長井を誇りに思ってもらうかが今後さらに重要になってくる。(地区)
6. 市民の健康へスポーツが果たす役割も大きい。その視点も盛り込んでほしい。(地区)

【産業・働く場・インフラ分野】

1. 生活体験を強みとした観光による雇用創出など、資源を活かせる産業が必要。(地区)
2. 若い世代の人が長井を離れ、戻ってきたくても仕事がない。年代に合わせた雇用の場があれば良い。(地区)
3. 自分たちで仕事を作るという視点も大事。農業分野では野菜を売るだけではなく6次産業化していかないとだめ。菜なポートはもっと活用できる。(団体)
4. レインボー野菜の消費拡大等、レインボープランを中心にした長井の売り込みが必要。(審議会)
5. 起業家支援やビジネスができる人の育成が必要。(審議会)
6. 今後買い物難民が増えていく。長井で買い物ができるように市バスの充実をしてほしい。(団体)
7. 公共施設・インフラの老朽化への対応が必要。公共施設に関する全体の計画を考えてほしい。(審議会)

【持続可能なまちづくり分野】

1. 若者が当事者として危機感を持って未来を考えないといけない。そのために若い人が活躍できる場を作る必要がある。(地区)
2. 市HPへの情報掲載量が減っている。行政と市民の情報共有を重視すべき。オープンデータによる市民活動・民間活動の活性化の方向性も検討すべき。(審議会)
3. 今後、人口減少に合わせて税収がいくら減るという数値を出していくべきではないか。(地区)
4. まちづくりに参加する人を増やしていくことがまちの活性化につながる。(地区)
5. 10年後、30年後を考えれば、教育や文化も大事。歴史や資料を残していくことも必要。(地区)